

各教科の授業改善プラン 1年生

指導方法の課題分析		具体的な改善プラン	補充・発展指導計画	
国語	<p>在籍が一人であるため、現状の分析についての公開はひかえさせていただきます。</p>	漢字や語句の知識を確実に身につけさせること、自ら積極的に問題解決に臨む姿勢を身につけさせることが課題である。	教科書掲載以外の文学作品を取り上げ、幅広い興味を引きだす。課題作文を通して、場面や目的に応じた表現を身につけさせる。	
社会		前時の内容をしっかりと理解し次に臨むという家庭学習を徹底させ、その積み重ねで単元全体の理解を深めさせていく。	家庭学習用のノートを毎授業時に提出させ、個別添削しアドバイスをする。振り返りカードに、毎回授業の要点を記入させ、理解できたかどうか確認する。	毎日の復習と、単元テストに向けて、自分で計画的に学習が進められるようにしていく。また、単元終了時にも単元の振り返りをさせる。
数学		正負のかけ算の符号の規則や分配法則を定着させること、ケアレスミスさせないようにすることが課題である。	たくさん問題に取り組みさせるため、演習を繰り返す。 ノート指導で、特に途中式を分かりように書く習慣をつけさせる。	定着していない部分を、昼休みや放課後の個別学習で補充する。 そのうえで、見方や考え方がさらに広がっていくような教材を示していく。
理科		正確な語句で定着させること、作図の仕方や図表の読み取りを定着させることが課題である。 1人学級だけに、教え込みに陥らないことが課題である。	語句については、板書を工夫して印象づけ、書き取りの練習を取り入れる。 作図や図表については、個別指導とともに考えさせる時間を取り入れる。	定着が低かった部分について、補充学習と再テストで定着を図る。 自分で考えさせて実験用具をセットさせるなど、興味や関心を引き上げながら発展的な指導を図る。
音楽		基礎基本を重視し、発声練習や教材を工夫し、音程をしっかりと取れるようにすることが課題である。	和楽器や管楽器など色々な楽器に触れ、生徒の興味を高めしていく。 変声期にあたり、歌唱は苦手意識を助長しないよう、発声法に気を付けさせる。	個人指導を中心に、力を伸ばした上で、他学年とのアンサンブルにつなげていく。
美術		色の塗り方が自己流になっているので、彩色の技術を明確に伝えること、自分で作業を進める力を付けることが課題である。	三原色を使った彩色や筆使いの練習を工夫する。 毎時間、目標を板書し、1時間継続して意識できるような声かけをする。	作業の途中に、材料や道具の活かし方をみせ、コツを伝える。 生徒の工夫に対し声をかけ、良いところを伝えていく。
保健体育		何のためにこのような運動や練習をするのか具体的な言葉を使い、見本を活用し、多くの運動体験をさせることが課題である。	事前の板書で目標を明示するとともに、1時間続けて目標を意識できるようにこまめに声かけをする。	基礎体力を身につけさせる。特に下半身の強化に時間をかける。自主トレーニングを取り入れ、自ら進んで成長しようという心を育てる。
技術		技能の定着には試行錯誤が必要であるが、限られた授業時間の中でそれを行うことが課題である。	体験的授業を多く取り入れ、試行錯誤しながら課題解決の糸口を見つけ出す授業を行う。	作品の製作を通して、基本的な工具の取り扱いを学習し、その上で電動工具や工作機械の加工技術も習得できるように例示する。
家庭		指示されたことに対し集中させること、細かい作業をていねいに行わせることが課題である。	補助教材として、材料の様々な切り方と正誤比較のできる見本を作るなどの工夫をする。	手を動かす作業を積み重ね、経験の少なさを補う。 授業を通して、ものづくりの楽しさを伝えていく。
英語		これまでは主に視覚・音声教材を用いての授業を展開したが、「読む」「書く」の力にも重点をおいた指導が必要である。	ノートに英文を書く作業を毎時間行う。単語テストやディクテーションを行い、単語のつづりや英作文力をチェックする。 ワークシートに長文問題を取り入れ、内容理解チェックを頻繁に行う。 教科書の音読を毎時間行う。	1年生のうちに三単現のS、代名詞の格変化を徹底するため、小テストやワークシートで定着を図る。 そのうえで、使用頻度の高い、一般動詞、形容詞、副詞の語彙力を高める。

各教科の授業改善プラン 2年生

指導方法の課題分析		具体的な改善プラン	補充・発展指導計画
国語	積極的で取り組んでいる。特に漢字学習への意欲が高い。一方何を問われているのか理解できていないことも多く、また書く力について個人差がある。	話す・聞く力や書く力の伸長が課題である。 特に自分の考えや調査した内容を正確に表現しまとめられるようにすることが課題である。	様々な読解問題に取り組ませ、文章を解釈する力を伸ばす。 文章を絵や詩などに表現する活動を取り入れ、表現力の向上を図る。
社会	じっくり考え、意欲的に学習している。授業内容を自分の言葉でまとめることもできるようになってきた。	単元での学習内容を自分の言葉でまとめられるようにすることが課題である。	家庭学習を計画的に進められない生徒には、計画表を作って学習させる。また、学習したノートを個別添削し学習の定着を確認する。
数学	課題解決学習の場面で、各生徒が活発な議論をすることができる。	文字式や連立方程式の計算について個人差がある。それに対応することが課題である。	定着していない部分を、昼休みや放課後に個別支援を行う。 問題演習などで発展問題をおまけ問題やトピックスとして紹介する。
理科	課題であった科学的な思考については、学び合い学習を通して少しずつではあるが定着してきている。	基礎的・基本的な事項は概ね定着しているが個人差が出てきている。科学的な思考をさらに伸ばすことと併せ課題である。	定着が低かった部分について、補充学習と再テストで定着を図る。 発展的な学習内容を授業に取り入れて意欲の向上を図る。
音楽	少し難しい演奏技法の、難易度の高い曲に挑戦したが、生徒は前向きに取り組んだ。	声がしっかりと落ち着いてきたので、前向きに歌唱を行うことと技術の向上が課題である。	個別指導からグループワーク、ソロ活動とアンサンブルを取り入れるなど、色々な学習形態に取り組ませる。
美術	互いの作品や見本から刺激を受け、作業を進めることができた。一方、集中するまでに時間がかかることが多い。	丁寧な作業、豊かな発想力を作品に反映させること、限られた時間内で作品を完成させることが課題である。	制作が授業時間内で終わらない場合は補充作業を行う。 進度の速い生徒には、自分なりの飾り付けを考えさせる。
保健体育	全員運動が好きである。一方、集中して話や指示を聞くことが不得手である。	何のためにこのような運動や練習をするのか具体的な言葉を使い、見本を活用し、多くの運動体験をさせることが課題である。	基礎体力をしっかりと身につけさせる。 特に自主トレーニングを取り入れ、学校だけでなく自宅ですすんで実行できるように意欲を高めたい。
技術	自分から進んで作品を作ろうとする意欲が強く、授業への取り組みは積極的で大変良い。	エネルギー変換に関する実習題材を効果的に活用しながら技能と知識の定着を図れるようになるのが課題である。	電気エネルギーについて深入りしないようにする。作品製作では個人差が出やすいので個別指導で対処する。作業の安全について心掛ける。
家庭	自分の生活を振り返って食生活における課題を見つけることができるなど、授業への取り組みは積極的で、発言も多い。	課題解決のための手立てを考えること、持続して集中できる取り組みを工夫することが課題である。	被服製作が授業時間内で終わらない場合は補充作業を行う。 進度の速い生徒には自分なりのデザインをさせる。
英語	生徒の人数が多い学年なので、コミュニケーション活動が中心の授業を行ってきた。どの生徒も、積極的に話そうとする意欲が見られる。	細かい文法に興味・関心が薄く、テストなどの得点力が低い。また、時制や動詞の語形変化のミスも多い。語彙、文法を中心とした取り組みの必要性がある。	スピーチなど表現活動を多く行い、原稿作りから、正しい英文で発表できるようにチェックをさせる。 長期休業中に動詞の語形変化、代名詞の格変化を中心とした問題に取り組ませる。

各教科の授業改善プラン 3年生

	指導方法の課題分析		具体的な改善プラン	補充・発展指導計画
国語	積極的に学習に取り組むようになっていない。発言は多くはないが、答えようという意欲が見られる。一方、記述問題が苦手な生徒が多い。	全体的に取り組みのスピードが遅いので、効率よく考える方法を身につけていくことが課題である。	様々なテーマの小作文に短時間で取り組ませテンポ良く思考するよう指導する。 ワークシートを活用し、記述の機会を増やし、記述に対して自信をもたせる。	様々な読解問題に取り組みさせ、パターンや回答の仕方に慣れさせる。 課題作文や漢字の総合テストなどで、既習事項を総合的に活用させる。
社会	意欲的に授業に取り組むようになり、積極的な発言も多い。	公民の学習内容の定着を図りつつ、地理、歴史分野の学習の補充をしていくことが必要である。	授業の最初に地理、歴史の確認テストを行い、家庭で復習できるようにする。 公民の学習内容を身近なことに関連付け、地理、歴史分野との関連をさせながら学習できる授業を行う。	ニュースや新聞を話題にし、現代社会に目を向けさせ、現代の社会に関心を高め、自ら課題を見つけ、考えさせていく。
数学	一つ一つの演習問題に時間がかかるが、提示された課題に対して真剣に取り組んでいる。	一・二年の基礎基本、中でも一次関数の式の求め方など関数分野の基本問題を解けるようにしていくことが課題である。	時間を明確に指定し、演習問題に取り組ませる。 学び合い学習を取り入れ、生徒の関心を高める授業を行う。	定着していない部分を、昼休みや放課後に個別支援を行う。 様々な場面で高校での学習内容を紹介する。
理科	個別支援と学び合い学習の継続によって、少しずつ科学的な思考が定着してきている。	基礎的・基本的な事項の定着については、正確な語句で定着させること、苦手意識をなくして計算をさせることが課題である。	今後も個別支援と学び合い学習を継続し科学的な思考の伸長を図る。 板書を工夫して正確な語句を理解させ、式の立て方と計算方法をていねいに指導していく。	毎時間「基礎チェックシート」で基礎基本の定着を図る。 生徒の興味や関心に応じて、発展的な学習内容を継続的に取り入れ、さらに学力の向上を図る。
音楽	器楽では、音楽を楽しみ、与えられた課題を自分で工夫していけるよう授業に取り組んだ。 歌唱は苦手意識が強い。	歌唱活動に前向きに取り組ませ、一人一人の声を生かした合唱にしていけることが課題である。	器楽は様々な楽器や曲に取り組み、技術の向上を図る。 教材選定や編曲の工夫、発声練習の工夫を行い、3年生をパートリーダーとした合唱作りをする。	学年全体で課題に取り組む、苦手な部分を補い合うことで、全体が良くなるよう、自信をつけさせる。 自ら課題を設定し、より自由な発想で活動させる。
美術	作品制作が好きで、描きたいものを自分から見つけて表現することができている。	線や色の重なりや筆使いから発想を広げていく経験を積み、自信をつけさせていくことが課題である。	漆材を使った作品作りに向け、説明を簡潔にし作業時間を確保する。また作品例と削り方の見本を作り、見通しをもたせるなどの工夫をする。	制作が授業時間内で終わらない場合は補充作業を行う。またそれぞれの生徒の工夫に対し声をかけ、良いところを伝えていく。
保健体育	運動が好きな生徒とあまり好きでない生徒に二分される。	両者が運動を好きになるように授業を計画、実践することが課題である。	事前の板書でホワイトボードに目標と内容を明示する。 様々な運動を体験させ、好きな運動を発見できるように工夫する。	基礎体力を身につけさせる。特に生涯体育に役立つ自主トレーニングへの取り組みに力をいれる。運動の好きな生徒は、チャレンジ精神を表し、上を目指すように刺激する。
技術	自分から進んで作品を作ろうとする意欲が強く感じられる。	マルチメディアの利用の学習で日常のコンピュータの活用も視野に入れて授業を展開するのが課題である。	コンピュータを使い慣れていくように実習内容を精選していく。	コンピュータの活用段階を基礎段階と応用段階に分け、習得状況に合わせてコンピュータの活用ができるようにする。
家庭	保育に関して、自分の幼児のころの体験を思い出しながら、学習に取り組むことができた。 個人の発言は少ないが、グループで活発に意見交流できる。	保育分野の内容を、中学生の生活に関連させて考えられるよう工夫することが課題である。	一人一人の生徒に、自分が実際保育に携わる際に大切なことを考えさせ、実際に体験させる。 個人の考えからグループに展開するような活動を取り入れていく。	自分の考えがなかなかまとまらない場合は、具体的な例をあげて補助していく。
英語	教師の発問に対する反応はよくなってきたが、語彙と文法面が弱い。コミュニケーション活動に自信が持てない。	文法、語彙を重点的に指導する必要がある。特に語彙については個々の単語の発音をしっかり覚えることが課題である。	音読、コミュニケーション活動などを引き続き多く取り入れ、小さなミスを指摘するより話そうとする意欲を引き出す。 小テスト、ワークシートに文法・発音・語彙の問題を多く取り入れる。	スピーチ、プレゼンテーションなど表現活動を多く行い、原稿作りから文法の指導をする。 長期休業中に、文法・語彙の総復習を行わせる。

